カトリック新聞　2016年3月20日　（毎週日曜日発行）　第4330号

「いのち」軽んじる「国家」に

ブログで“平和運動”発信中

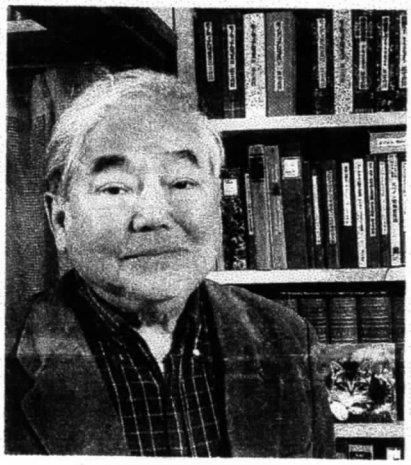
福島・南相馬市　佐々木孝さん

スペイン思想研究家の佐々木孝さん（76／福島・原町教会）は、5年前の東京電力「福島第1原発」事故の後も、認知症の妻を介護するため、福島県南相馬市の自宅にとどまった（本紙2013年3月10日付紹介）。被災地から見えてくる「日本社会」（国家）は、利潤と効率を最優先にして、最も大切な「いのち」を軽んじている。こうした危機的社会状況に抗議するため、自身のブログ（日記的なウェブサイト）で、佐々木さんは真実の「声」を発信する独自の〝平和運動〟を続けている。

「モノディアロゴス」（独対話）と名付けられた佐々木さんのブログの閲覧者は、東日本大震災後5年間で51万人に上る。佐々木さんはほぼ毎日、世の中の事象について独自の見解を発信している。こんな具合だ。

―日本「国家」は、浜通りと呼ばれるこの美しい海岸線を原発銀座にしてきた。…「国家」にはいつも生きている人間の顔が見えない（一部抜粋／11年4月4日）―

ブログの文章群は、自作本『モノディアロゴス』にまとめ、現在12巻（震災後7巻）を数える。また震災直後の文章84編は、2011年8月に『原発禍を生きる』（論創社）として出版した。韓国・香港・スペインでも翻訳・出版され、特にスペインでは「社会を『奈落の底』から見た本」として絶賛されている。



佐々木孝さん

「人づくり」と〝規格品〟づくり

大学教授として東京でスペイン思想・人間学を教えていた佐々木さんは02年、故郷の南相馬市に移住した。震災時、原発事故で地域住民が自主避難する中、認知症の妻のために原発から約25キロの自宅に残る決断をした。

福島の人々は、原発と放射能によって「くに」（故郷）を奪われた。そして佐々木さんは、妻の介護でその「くに」にとどまることで、「魂の重心」（視点・視座）を低く保ち、日本を「奈落の底」から見つめることになった。震災後に痛感したことは、日本が「一番大事なものを失っている」ことだ。

佐々木さんが怒りを抑えきれない出来事は続く。鹿児島県の川内原発等の再稼働は「事故が起きたら、また福島と同じになる。まさに愚挙」。また安倍政権の経済政策は、お金は上（富裕層）から下に流れると主張するが、「お金は下から上に吸い取られるもの」。また、違憲が濃厚な安全保障関連法だが、「国家は国民を守らないのが常だ」。

佐々木さんはこう話す。

「さまざまな謝罪会見でペコリと頭を下げる〝その場しのぎ〟の言動が横行している。国会答弁をはじめ、社会には本筋を離れた〝その場しのぎ〟が満ちあふれています」

これらの根底にある問題点は、「国家」が「人づくり」をしてこなかったことだと、佐々木さんは考える。日本は秩序正しく、犯罪も少ない国だ。そして「物づくり」に優れ、職人かたぎで生み出された製品は最高質で、徹底した品質管理も評価されている。しかしそこから派生する問題点を、こう指摘する。

「人間はもともと凸凹にできていて、それぞれ違うのが当たり前。それなのに、学校教育に『物づくり』の精神をそのまま持ち込んで〝規格品〟の人間をつくり始めたのです。規格からはみ出した者はいじめの対象となり、管理しづらい人間は排除されていく。人と違う行動ができず、指示通りにしか動けない人間を、学校でつくっているわけです」

本来、学校で学ぶべきことは「一人一人を大事にすること」や「自分の目で確かめて、自分の頭で考えて、自分の心で感じること」だ。今の学校にこれらを学ぶ教科はない。また、自分たちの「くに」の文化や歴史、そして、アジアの近代史は教えない。

真実の「声」を拡散

「政治家・教師・ジャーナリスト・宗教者が、それぞれ本来の使命を果たさなくてはいけない時代です。何も言わないことは賛成と同じ。教会や修道会、カトリック学校も本来の役割を果たしているでしょうか」

佐々木さんの目には、国民が「正しく怒ることを忘れている」ように映る。

現在、佐々木さんは、ブログのほかに、手のひらサイズの豆本歌集を作り、自身の「声」を拡散している。ここには自作の三つの歌が収められている。一つは「平和菌の歌」と題され、「平和」を「菌」にたとえて、人々の心に平和への思いをじわじわと散布し、心の垣根や国境線も消していこうという内容だ。

「真実を言い続けないと、世の中は動きません。私たちにできることは、真実の『声』を世界中に拡散することです。小さな反逆を繰り返し、風通しを良くすること。人間である限り、大事なものに『気付く力』は持っています。気付いた人同士が励まし合って声を広げていけば、大きな力になるはずです」

URLはhttp://fuji-teivo.com/。豆本歌集や自作本の詳細は電子メールfuji-teivo@nifty.com宛。